

減税について

佐賀大学教育学部附属中学校 3 年 横尾 愛

税金を下げることに賛成する人は多いだろう。しかし本当にそれでよいのだろうかとは私は考える。最近では、地方の下水管の破損や老朽化したインフラが大きな問題となり、ニュースで取り上げられている。今でも地方自治体は住民の生活を支えるために多くの費用を必要としている。もし税金を軽くするだけを優先すれば、生活に欠かせない公共サービスや安全が守られなくなる危険があるのではないかと感じる。

八月、学校に佐賀財務事務所の方々が来られ、国の予算について考える授業が行われた。私たちの班はオリジナルの予算案を作り、専門の方にアドバイスをいただいた。私たちがテーマにしたのは「少子化と高齢化」という問題である。最初、私たちは高齢者が増えているのだから教育よりも年金に多くの費用を回すべきだと考えた。しかし話し合いをしていくうちに、教育費を減らせば子育てにかかる負担が増し、ますます親が子どもを産みにくい社会がうまれてしまうことに気づいた。そうなれば、より一層少子化が進み、結果的に社会全体を支える力が弱まってしまう。つまり、年金を守るためにも教育や子育てに予算をあてることは欠かせないのだということが分かった。

さらに日本は憲法で戦力を持たないと定められているため、防衛の一部をアメリカなどに依存している。また、アメリカに守ってもらうための費用や、国際社会の中で信頼を得るための協力資金も必要となる。発展途上国への支援も、日本の立場を維持し世界とつながるために欠かせない出費だと学んだ。こうした視点を得ることで、税金は単に「取られるお金」ではなく、「社会を安定させ、未来を築くために使われる大切な資源」と感じるようになった。

このことから、これから私たちは、まずひとりひとりが税金の役割を理解し、自分の生活と結び付けて考えることが大切だと思う。将来私たちが社会に出れば、必ず納税者となる。税は人任せにできるものではない。そのために、学生のうちから政治や経済の仕組みに関心を持ち、自分の意見を考える習慣を身につけていく必要があるだろう。

私たちが声を上げることで、よりよい社会をつくっていくことができる。単に「税金を下げしてほしい」と願うのではなく、「税をどのように使えばみんなが安心して楽しく暮らせるのか」を考え、行動することこそが、これからの私たちに求められているのではないと思う。

税金は、現在の生活を守るだけでなく、未来を支えるための「みんなの財産」である。

私は今回学んだことから、私は、しっかりと税金の意味を知り、ただ税金を安くしてもらおうとするのではなく行動していくことが大切だと分かった。